



広島平和記念式典に参列する機会を頂きました。一発の原爆により一瞬にして14万の命が奪われ、今も後遺症に苦しむ方がたくさんいるということを知り、痛感いたしました。印象深かったのは、被爆者の体験講話です。『生きていて地獄を見た』原爆は、一瞬で地獄をつくってしまうということです。講話を聞き、原爆の恐ろしさを知りました。依然として、この世界には広島・長崎に落とされた原子爆弾の威力をはるかに上回る核兵器が、たくさん存在しています。この世界が少しでも平和に近付き、核兵器がなくなることを願っています。  
《美浦村区長会長 根本 正則》



僕は、初めて広島に行き、被爆者体験講話、平和記念資料館で知って驚いたことは、一つの原子爆弾で約14万人もの方が亡くなったことです。上空約600メートルで爆発して、半径2キロメートル以内が破壊されました。温度は3千度から4千度でした。想像のつかない熱さです。1キロメートル以内で放射線を浴びた人は、ほとんど亡くなりました。放射線は恐ろしいものだと思います。僕は、こんなに恐ろしい戦争を二度と起こさないように、このことを伝えていきたいと思っています。  
《安中小学校6年 糸賀 稀史》



米国が人類史上初めて戦争で核兵器を使った「あの日」から71年の8月6日。私は初めて広島平和記念式典に参列させていただきました。原爆ドームや平和記念資料館見学、被爆体験講話、平和記念式典に参列し、自分の目と耳で被爆地を感じてきました。「あの日」から71年がたった現在も、世界から核兵器が未だに廃絶されていないのが現状です。唯一の戦争被爆国として世界に伝えねばならないことがあり、子ども達の未来を壊さぬように、核廃絶のため、更なる行動が大切だと思いました。ヒロシマを忘れない。このような機会を頂けたことに深く感謝いたします。  
《安中小学校保護者 糸賀 尚紀》



僕は、初めて広島に行きました。たった一つの原爆で、建物等は押しつぶされたり吹き飛ばされたりしてなくなり、爆心地は3千度以上になって、人や建物が一瞬で燃えてなくなりました。家の下敷きになったり、火傷で皮膚が溶けておぼけのようになって死んだ人がたくさんいました。そういう人の人形や、写真や、ほろほろになって血が付いたままの服等をたくさん見ました。僕は戦争を知りません。でも、広島に行って原爆の恐ろしさが分かり、こんな悲しいことがもう起こらないように、原爆や戦争が世界中からなくなればいいと思いました。  
《大谷小学校6年 岡村 雄大》



「まさに地獄そのものだった」と、当時19歳で被爆した新宅さんは言いました。平和記念資料館には、思わず目を背けたくなるような遺品や写真等がたくさん展示されていて、写真からは苦しみの声が聞こえてくるようでした。一瞬にして14万人も命を奪い、多くの人の心に傷を残したのは、たった一つの原子爆弾でした。今、世界に1万5千発を超える核兵器が存在するそうです。この悲劇が二度と起こらないよう一日でも早く世界中から戦争が、核兵器がなくなり、平和な世界になるよう願っています。今回、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。  
《大谷小学校保護者 岡村 博美》



僕は、広島で戦争や平和についてたくさんの事を学び考えました。特に印象に残っているのは被爆者体験講話で、現在90歳の新宅さんが原爆投下直後の状況を語ってくれました。原爆の熱風で皮膚や肉がはぎとられ、人が人の姿でなくなっていく地獄のような光景だったと聞き、原爆でどのように人が死んでいったのか。そして、生き残った人のつらい思いを知ることができました。今、僕に出来ることは、未来に戦争のことを伝えることなので、この体験を決して無駄にしないようにします。この世から核兵器を無くし、ずっとずっと平和な世の中を願っています。  
《木原小学校6年 石川 優太郎》



平和記念式典に孫と参加し、戦争の凄惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さについて一緒に考えることができました。あの日から71年、今年5月に初めてオバマ大統領が被爆地広島訪問を果たした年でもあります。謝罪の言葉はなかったものの、多くの国民は好意的に受け止めたと思います。平和宣言ではオバマ氏の演説のうち「核兵器を保有する国々は核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない」と訴えました。戦争を知らない世代が多い中、悲惨な過去を決して風化させることなく、語り継がなければならないと決意を新たにしました。  
《木原小学校保護者 石川 修》



折鶴奉納



原爆死没者慰霊碑



平和の鐘



平和記念資料館

# 核兵器なき世界の実現に向けて 伝えよう平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列



広島・長崎への原爆投下から71年が経過する本年は、原爆死没者が30万人を超えた一方、5月27日にバラク・オバマ氏が現職アメリカ大統領として初めて広島を訪れ、核兵器の廃絶を訴えるという歴史的な出来事に世界が注目。非核への意識が高まりを見せています。

村では、昭和63年の「非核平和美浦村宣言」を機に、平和記念式典への派遣を実施しており、今年も小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表、教職員代表の計11名が、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）に参列しました。また、今回は木原小学校の協力を得て、小学生3名を対象とした事前学習会を実施。平和記念資料館では、その予備知識をもって3人で熱心に展示物等を見学している姿が印象的でした。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。  
《敬称略》



71年前、原子爆弾が投下され、一瞬にして街が壊滅し尊い命が奪われました。資料館の展示遺品が静かに、しかし、しっかりと戦争と原爆のすさまじさを伝えていきます。

一瞬の閃光を受けて死亡した人の人影が付いた石段、ボロボロになった衣服等が、あの日に生きていた人々の苦しみや悲しみを物語っているかのようでした。

そして、今もなお後遺症で苦しんでいる人々。この恐ろしく悲惨な歴史を繰り返してはならないと、つくづく思い知らされました。今回は、このような機会を与您いただきありがとうございました。  
《美浦村議会議員 山崎 幸子》



原爆の惨禍から71年。原爆死没者が初めて30万人を超え、今なお多くの人が後遺症に苦しんでいます。平和記念資料館では、一瞬にして町を破壊し、多くの犠牲者を出した核兵器の破壊力と凄惨さに背筋の凍る思いをしました。オバマ大統領が広島を訪れ被爆地への関心が高まる中で挙行された平和記念式典。「被爆者の思いや言葉を伝え広めていくには若い力が必要。命の尊さを語り伝えなければいけない。」という訴えが深く胸に残っています。

安全で平和な世界を願わずにはいられません。このような貴重な機会を与您くださったことに深く感謝申し上げます。  
《木原小学校校長 木内 敦子》